

本 会 記 事

I. 平成25年度 第1回評議員会議事録

日 時：平成25年11月23日（土）14:00～16:30

場 所：日本植物防疫協会事務所（地階大会議室）

出席者：相野公孝，畔上耕児，古屋廣光，濱本 宏，曳地康史，平塚和之，廣岡 卓，石黒 潔，石川成寿，岩井 久，北 宜裕，小泉信三，近藤則夫，久保康之，桑田 茂，増田 税，松永 礼，森田健二，難波成任，夏秋啓子，夏秋知英，大島一里，奥野哲郎，尾谷 浩，佐野輝男，高橋英樹，高橋賢司，高松 進，田代暢哉，寺岡 徹，土佐幸雄，津田新哉，對馬誠也，吉川信幸，金山晋治，百町満朗会長，土屋健一副会長，根岸寛光幹事長，有江 力副幹事長

以上評議員39名（定数55名，欠席：秋光和也，阿久津克己，荒瀬 榮，築尾嘉章，景山幸二，川北一人，仲川晃生，西口正通，西尾 健，大木 理，白石友紀，瀧川雄一，田中文夫，柘植尚志，月星隆雄，長谷川裕）

幹事・事務局出席者：小松 健会計幹事，大里修一副会計幹事，芦澤武人庶務幹事，奥田 充庶務幹事，松原美穂事務局員，渡辺玲子事務局員

1. 開会の挨拶（百町会長）

2. 審議事項（議事進行：百町会長）

(1) 平成25年度日本農学賞候補者の選出について（百町賞選考委員長）

日本農学賞に難波成任氏を推薦することが提案され，承認された。

(2) 平成23年度功績者の推薦について（百町会長）

名誉会員に奥田誠一氏，高浪洋一氏を推薦することが提案され，承認された。永年会員に大澤高志，木村俊夫，坂本 庵，神澤克一，贄田裕行の各氏を推薦することが提案され，承認された。

(3) 平成26年度論文賞の選考について（大島編集委員長）

以下の2編を論文賞とすることが提案され，承認された。

1. Seiji Uematsu, Koji Kageyama, Jouji Moriwaki, Toyozo Sato. *Colletotrichum carthami* comb. nov., an anthracnose pathogen of safflower, garland chrysanthemum and pot marigold, revived by molecular phylogeny with authentic herbarium specimens. J. Gen. Plant Pathol. 78: 389-397 (2012).

2. Kyoko Sugawara, Misako Himeno, Takuya Keima, Yugo Kitazawa, Kensaku Maejima, Kenro Oshima, Shigetou Namba.

Rapid and reliable detection of phytoplasma by loop-mediated isothermal amplification targeting a housekeeping gene. J. Gen. Plant Pathol. 78: 316-330 (2012).

(4) 学会賞，学術奨励賞および日本農学会賞候補者の選考について（百町賞選考委員長）

選考過程を報告し，学会賞については次の3氏が推薦され，承認された。（氏名はABC順）

- 増田 税氏「キュウリモザイクウイルスとそのサテライト RNA の分子生物学的研究」
- 澤田宏之氏「*Agrobacterium* 属および *Pseudomonas* 属植物病原細菌の分類と進化に関する研究」
- 川北一人氏「植物の防御応答における NO 機能に関する研究」

また，学術奨励賞については次の3氏が推薦され，承認された。（氏名はABC順）

- 藤川貴史氏「カンキツグリーンニング病原細菌の早期高感度検出技術に関する研究」
- 竹田篤史氏「RNA サイレンシングによるウイルス抵抗性機構及びウイルスによる RNA サイレンシング抑制機構に関する研究」
- 望月知史氏「植物ウイルスの発病機構に関する分子組織化学的研究」

(3) 教育プログラムについて（土屋教育プログラム委員長）

平成26年度の教育プログラムを弘前大学にて開催することが提案され，承認された。

3. 報告事項

(1) 平成26年度副会長選挙結果の報告（根岸幹事長）

平成26年度副会長選挙において寺岡徹氏が選出されたことが報告された。

(2) 平成26～27年度評議員選挙結果（根岸幹事長）

平成26～27年度評議員選挙の結果が報告された。

(3) 平成26～27年度会計監査選挙結果（根岸幹事長）

平成26～27年度会計監査選挙の結果が報告された。

(4) 日本農学進歩賞の受賞者の報告（百町賞選考委員長）

本会が推薦した柿澤茂行氏「ファイトブラズマの膜表面タンパク質と宿主決定機構に関する研究」が第12回日本農学進歩賞を受賞したことが報告された。

(5) 平成26年度大会（札幌市）の準備状況について

（増田平成26年度大会委員長）

平成26年度6月に開催予定の日本植物病理学会大会の準備状況が報告された。インターネット利用の普及に伴い，

本会ホームページからの申し込み者が多数となったため、冊子体への申込用紙の差し込みを廃止し、ホームページが閲覧できない会員には必要に応じて電話により受け付けることが報告された。

(6) 100周年記念事業について（難波100周年記念事業実行委員長）

第6回100周年記念事業実行委員会において審議された各小委員会・部会における作業の進捗状況が報告された。記念式典等の日程及び会場の最終案と運営委員会の設置及び学術事業安定化基金の取り崩しについて提案があり、承認された。また、シンポジウムの演者・演題について、今後の本会を担う若手を中心に起用することとなり、評議員からの提案を募っていることが報告された。

(7) 農学会会長等候補者推薦について（根岸幹事長）

日本農学会事務局より平成26年度日本農学会会長及び副会長選考の参考とする候補推薦の依頼があったことが報告され、推薦があれば事務局までお知らせ願いたい旨の案内があった。

(8) 日本学術会議植物保護科学連合関係について（根岸幹事長）

第22期第2回農学委員会植物保護科学分科会の議事録が報告された。平成25年11月16日に開催された学術会議公開シンポジウムでは、当学会から川口章氏が「トマトかいよう病の疫学的解析による伝染源の解明とその根拠に基づいた防除」の演題で講演し、好評であったことが報告された。

(9) 平成25年度大会・部会報告（根岸幹事長）

平成25年度の大会、部会、研究会等の開催状況について報告された。

(10) 第9回教育プログラム開催報告（石黒教育プログラム推進委員会委員）

平成25年8月5日から8月9日に開催された第9回教育プログラムの概要が報告された。30名の参加のうち、12名が非会員であったが、会員より参加費を高く設定し、本会への入会を勧奨していることが報告された。

(11) 編集委員会報告（大島編集委員会委員長）

JGPPのインパクトファクターは昨年より上がっていること、2012年と比べて海外の投稿数が増えていることが

報告された。100周年記念事業の一環として英文レビューがJGPPに掲載されたこともあり、ページ数が増加したが、シュプリンガーとの契約の上限値内に収まっているため、追加費用は発生しないことが報告された。また、平成26年の編集委員長である岩井久氏より、平成26年の編集体制が報告された。100周年記念事業に伴う英文誌・和文誌へのレビュー掲載等に対応するため、編集幹事を増員することが報告された。

(12) 技術士対応委員会報告（難波技術士対応委員長、濱本技術士対応委員）

本年度は13名（内7名が学会員）が合格し、内5名が技術士試験対策セミナーの受講者であったことが報告された。これまでに技術士の合格者が70名となり、本年度の農林水産省と環境省の実施予定事業での入札の一部における競争参加資格に、実施者の中に技術士（植物保護）を含むことが要件となっていることが紹介された。また、次年度大会においても同セミナーを開催する予定であることが報告された。

(13) インターネットを利用したウェブ選挙について（奥田庶務幹事）

平成27年度に実施予定の平成28～29年度評議員選挙について、投票専用のウェブサイトから投票できるように準備を進めていることが報告された。

(14) 三学会会長懇談会について（根岸幹事長）

例年通り、日本植物病理学会、応用動物昆虫学会及び農薬学会と日本植物防疫協会理事との懇談会が12月に予定されているが、応用動物昆虫学会が法人化を目指していることが話題になる予定であることが報告された。現時点では法人化のメリットが明確でないため、本会としては移行には慎重である旨を伝えることが確認された。

(15) 外来種被害防止行動計画（仮称）の策定及び侵略的

外来種リスト（仮称）の作成に関する意見照会について一般財団法人自然環境研究センターより、外来種被害防止行動計画（仮称）の策定及び侵略的外来種リスト（仮称）の作成に関して、当学会に意見照会があり、お知らせメールにより各会員からの意見を募ったことが報告された。評議員委員会開催時点では、会員から意見は寄せられていないが、今後の動向を注視していくことが報告された。